

第1 学年校長講話「努力について考える」(要旨)

下妻一高に入学して約10ヶ月。自分の思い描いていた高校生活は送れていますか。勉強・部活・友人関係など総合して目標の達成度を5段階で評価して下さい。そしてその様になった原因(理由)を考えて下さい。改善点があるとすれば、何が必要ですか。それは「努力です」と答える人もいるでしょう。今日は、努力について考えてみたいと思います。皆さんは今までにどんな努力しましたか？その努力は何のためにしましたか？その努力は、報われましたか？その努力は、目標を達成するために十分な努力でしたか？また、結果に結びつく努力とは、どういう努力でしょうか？

下妻一高時代に関わった生徒について話します。

S君 104回生 (現1年生は120回生となります)

中学時代野球部、陸上の実績なし。通学途中に交通事故。練習再開は1年の冬。順調に冬季練習をこなして体力をつけた2年生の春先、脚に大怪我。車いすでのリハビリ。病院に行くと全く心が折れていない。練習再開は秋口。家族の暖かい励ましが印象的だった。

「おまえ、走れないのなら野球部だったんだし、肩は強いはずだから槍でも投げてれば良いよ」とアドバイス。復帰間もない秋の新人戦での衝撃。やり投げ審判の先生が「大変なことが起きている。」やり投げ優勝。しかも関東で通用するレベル！ 県大会2位(1位は全国レベルの選手) 関東高校新人での惨敗。原因は、練習のやり過ぎで肩負傷。再びリハビリ。「肩は痛くても走れるよな。走れるようになれば良いことあるから。」3年の春、初めての幅跳公式戦。「僕、ずっと幅跳びやりたかったんです。」県西3位。県1位。関東2位。インターハイ、国体出場。大学でも活躍。

K君 105回生

先天性難聴、入学時は下位。読唇で授業を受ける。中学時代思うような生活ができず高校入学と同時に一念発起、自分から殻を破ることで成長。友人にも恵まれる。2年生後半から陸上競技部入部。運動にも自信がつく。大学・大学院で化学を専攻し薬の研究開発に取り組んでいる。就職してからもスポーツに親しみ、全国大会で優勝するなど充実した生活を送っている。彼は取材の際に、こんなふうに述べている。『私は、目標を立てた後に途中で失敗しても、なぜ失敗したのか、何が原因だったのかを深く考えることを繰り返してきました。また、深く考えた末に目標を達成するのが困難であることが分かるとすぐに目標を修正してきました。・・・がむしゃらに努力して何度も失敗するだけでは成功しません。失敗した理由、失敗した原因を深く分析して次に生かすことによって精巧に導かれると考えています。これは勉強にもスポーツにも、そして生きていく上での障害を乗り越えていくときにも共通すると考えています。』

教師を長年やっていると生徒の持つ潜在能力に驚かされることや教えられることが多く、特に、下妻一高に勤務して教師としての醍醐味をたくさん味わうことができ感謝しています。努力とはどういう風にすれば実るのかを知ることができました。

皆さんには、先輩の話が、自分とは関係のない遠い世界の話に聞こえたでしょうか。

努力しても実らないことはあるけど、努力しなければ実るはずのものも実らないのです。努力しても報われなければ努力は無駄ですか？努力したことを最も知っているのは、努力した本人です。その恩恵を受けるのも自分です。そして周囲の人も幸せにします。

彼らが成功した理由に、プライオリティ（優先順位）が明確だったこともあると思います。これからしようとする努力の方向性が正しいかどうかにも注意が必要です。方向性が正しければ、足りない分を足していけば報われる可能性が高まりますが、方向性を間違えていると、どんなに努力しても目標からどんどん離れていくだけです。また、時間の使い方も工夫しましょう。自分が使える時間が1日2時間あれば1年では、730時間、まるまる30日分です。今までの生活をもう一度振り返って、高校生活を充実させていきましょう。